

平成20年度 情報工学コース卒業研究報告要旨

長尾 研究室	氏 名	木 内 啓 輔
卒業研究題目	ディスカッションリマインダによる 会議における議論の活性化に関する研究	

● 本研究の目的

筆者の所属する研究室では、ディスカッションマイニングと呼ばれる、人間同士の知識交換の場である会議から実世界情報を獲得し、それらを半自動的に構造化することによって、再利用可能な知識を抽出し、会議コンテンツとして蓄積・共有する技術の研究・開発を行っている。ディスカッションマイニングシステムは図1のような環境で運用されている。

ディスカッションマイニングの目標の一つとして議論の活性化がある。ここで筆者は会議参加者の知識レベルの差を埋めることでその目標に近づけると考えた。本研究では知識レベルの差を埋めることを知識の共有化と呼ぶ。知識レベルの差は過去の会議に参加したことがないなど様々な理由で生じてしまう。しかし知識の共有化を行い十分な知識を持って会議に臨むことで、議論に対する理解が容易になり、結果として議論への参加者が増加し活発な議論が行われると推測する。

そこで本研究では、ディスカッションマイニングによって作成された会議コンテンツを利用して、会議中に過去の議論に対する情報を共有できるディスカッションリマインダシステムを実装した。このシステムを用いて会議中に過去の発言や議論を振り返ることによって、知識の共有化が促進される。この仕組みによって、議論の活性化を目指す。

● システム概要

ディスカッションリマインダシステムでは、まず検索インタフェースにクエリを入力し会議コンテンツの検索を行う。検索結果は図2のように表示される。スライド、議論セグメント(一つの話題に関する発言の集合)といった異なる粒度の情報を同時にメインスクリーン上に可視化することで効率的な議論の探索を可能にする。そして参加者は構造化リモコンを用いて閲覧したい議論セグメント中の発言を選択し、図3に示すようにサブスクリーン上にてその映像を視聴することが可能である。

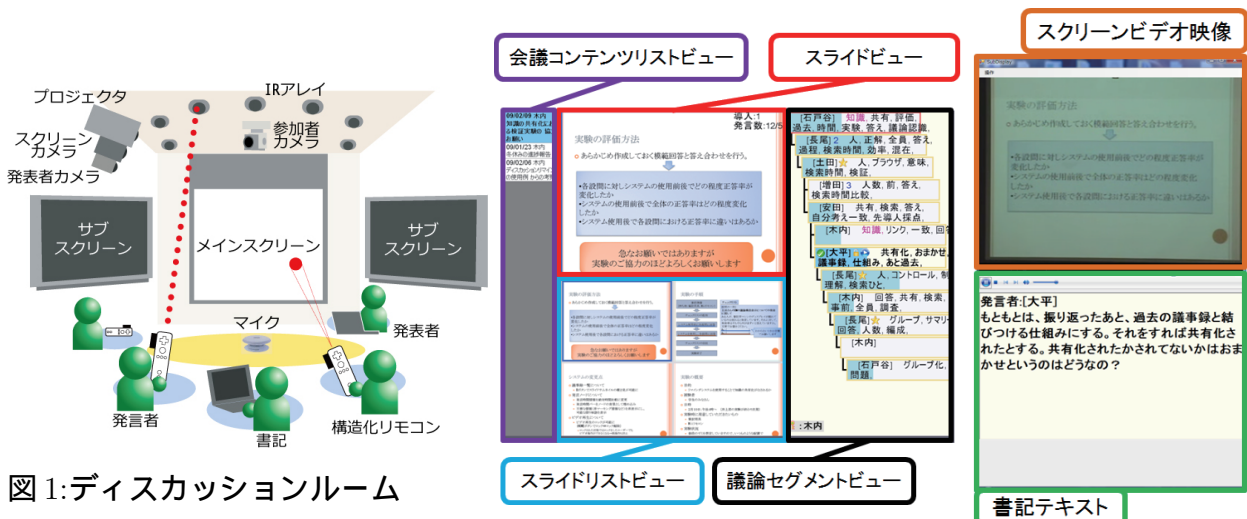


図1:ディスカッションルーム

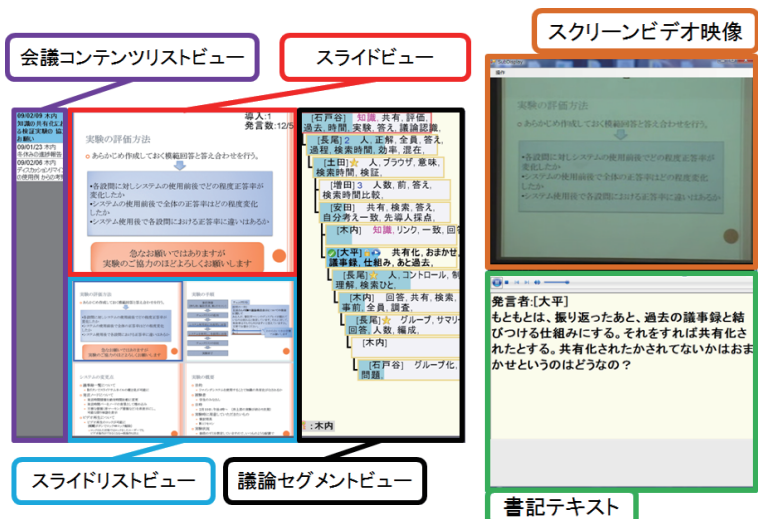


図2:会議コンテンツ一覧画面

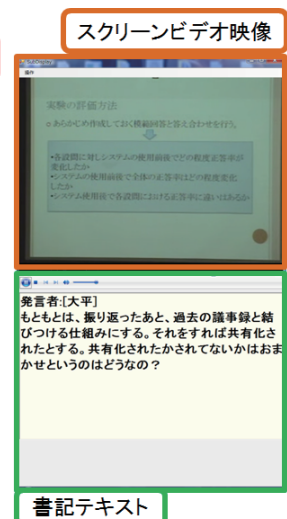


図3:映像視聴画面